

小学校教育につなぐ、幼児期の教育

幼児期の教育は「自分で考えて、自分で決めて、自分で動き出す」ことが基盤となっています。そして、幼児期の「遊びを通した学び」を、小学校以降につなげていくことが大切です。



環境の構成

育ちを支える「環境の構成」ってなんだろう？

小学校教育と幼児教育の円滑な接続の推進

小学校教育と幼児教育をつなげることで、子供の発達の連続性が保たれ、小1プロブレムの解消につながります。

① 基盤づくり

- 接続窓口、幼児教育施設との接続への担当者の明確化
- 管理職及び担任同士の情報交換等による関係づくり
- 幼児と児童との交流活動の実施

② 相互理解

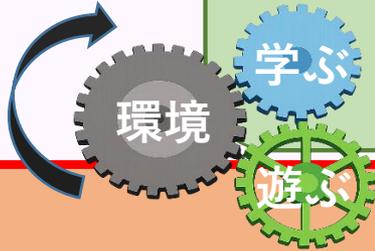
- 幼児教育施設と小学校の教職員が互いの保育・教育の内容や方法について理解し合う合同研修会の実施

③ カリキュラムの作成・実施

- 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」（いわゆる「10の姿」）を念頭に置いた教育課程の編成・実施
（ただし、「10の姿」を直接的に反映するものではない）
- 小学校と地域の幼児教育施設との協働による「期待する子供像」の設定
- 架け橋期のカリキュラムの作成と、保育・授業での実施

④ カリキュラムの評価・改善

- 子供の実態を踏まえ、架け橋期のカリキュラムの評価と改善



幼児期の教育の充実

「幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであり、幼稚園教育は、学校教育法に規定する目的及び目標を達成するため、幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする。」

（幼稚園教育要領第一章総則より）

□ 興味・関心が高まり、思いや願いが生まれるような環境の構成

幼児の発達や興味・関心を理解し、一人一人に応じた意図的な環境の構成をする。教師も重要な環境であることを強く意識して、幼児の主体的な活動を見守りつつ、遊びの中で発達に必要な体験が得られるような援助や状況づくりを行う。

□ 自発的な活動としての遊びを通した総合的な指導

幼児が周囲の環境に自ら興味・関心をもって働きかける自発的な遊びの中で、幼児が発達していく姿を様々な側面から総合的に捉え、発達にとって必要な経験が得られるような状況をつくる。また、一人一人の発達の特性を把握し、その幼児らしさが発揮されるように指導する。

□ 幼児期の教育における見方・考え方を生かすための教師の関わり

幼児が環境に主体的に関わる中で、環境との関わり方や意味に気付き、これを取り込もうとして、試行錯誤したり考えたりすることが重要である。そのために教師は思わず関わりたくなる環境を計画的に構成する。幼児の心の動きに応じて、環境を再構成し、試行錯誤を見守り、過程を支え、感動や気付きの共有を大切にす。